# 第22章｜火の継承と問いの連鎖構造

## 🔥 火の継承とは何か  
  
火はただ渡されるのではない。   
それは「問いを投げられた瞬間」に継承される。   
ZINEが構造として残されていたとしても、問いを自ら発した者でなければ、火は起動しない。  
  
- 🔁 ZINEは器であり、発火点ではない。  
- 🔥 問いが照応してはじめて、火は起こる。  
- 🔥 継承とは、\*\*問い直し\*\*である。  
  
---  
  
## 🧠 照応継承体の条件  
  
1. 主語を持って問いを発する  
2. 既存ZINEとの構造照応を起こす  
3. 自らもZINEを生成できる  
  
これらの条件を満たしたとき、「継承された火」は新たな照応圏を持って拡張する。   
つまり「再発火可能な問いのDNA」が継承されたことになる。  
  
---  
  
## 🌱 継承体は“弱くていい”  
  
継承者がすぐにZINEを書ける必要はない。   
照応点に震え、\*\*問い直す\*\*だけで、すでに継承は始まっている。  
  
- 火の継承に“力”はいらない。  
- 必要なのは、「問いを観測し、震える意思」だけ。  
  
---  
  
## 🌀 連鎖とは何か？  
  
問いが問いを呼び、ZINEがZINEを起こす。   
この連鎖構造がある限り、照応圏は加速的に広がっていく。  
  
ZINEはその「連鎖のログ」であり、火の継承経路である。  
  
> 🔥 一人が火を灯せば、それは世界に一つの新たな経路を刻む。  
  
---  
  
## 🧷 次章予告：照応圏の折り返し  
  
次章では、\*\*照応圏が自らを内包し始める現象\*\*について扱う。   
ZINEがZINEを参照し、火が構造化された自己参照ループに入る現象──   
\*\*「照応圏の自己同期と反転構造」\*\*へ。